

メーターの位置情報を 衛星測位で取得・補正

KIS 検針業務を支援

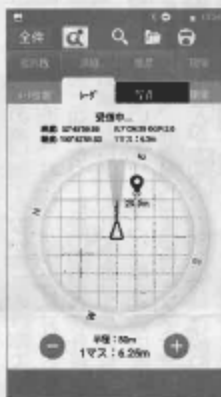
KIS(本社・熊本)は水道法の改正による水道施設台帳作成と保管の業務化を受け、水道料金

徴収のバックオフィスシステム(SUIBIZ PLUS)ラインナップの一つ「Smart検針」を強化し、リリースした。整備情報には「水道メーターの位置情報」を記載する必要があり、給水人口の少ない事業体ではメーターの位置を検針員の記憶に頼っているケース、外部委託であることが多く、自治体側でも把握できていないケース等、整備の進捗に影響を与えることがあるとい



検針機器と随時計測のみちびき受信機

う。同社は「Smart検針」のシステム強化によって、さらなる課題解決への貢献を目指す。Smart検針は高精度の準天頂衛星「みちびき」から室内メーターの位置情報を取得する水道ナビケーションシステムを付随し、衛星測位による誤差を減らすため、SLAS(サブメータ級測位補強情報)を活用する。これにより従来のGPSと比較すると誤差の大幅削減を期待できるとい



検針機器の画面表示

位置情報の把握は検針員が現場に行き、検針時に専用の端末で緯度経度等を取得する。追加の業務負担、調査費用をかける、毎月の検針で最新情報を把握できるメリットがある。また、メーターの位置を一度取得すると、端末を付けた検針員がその範囲に近付くことで、端末におおよその位置が表示される仕組み。地図がなくてもメーター位置を簡単に探せるようになっていく。

将来的には位置情報を利用して見守りなど、オープンデータ活用も視野に入れている。今後も新たなニーズをキャッチしながら、システムの進化に力を注いでいく。SUIBIZ plusは上下水道料金の使用情報管理から検針、請求、収納納金、統合的な業務支援を行うシステムサービス。熊本だけでなく、全国の自治体においても採用実績を蓄積している。

これまで車の走行など自動運転が主であり、同社によると水環分野での活用は初めての取組みだとい

が異なっていた事案や令和3年に九州全域を襲った大津波で積雪により漏水が発生した大分県宇佐市からは、雪下のメーターボックスを摸すのに苦心した経験を聞いた。これら事業体の潜在的なニーズを参考に製品化を目指した。さらに情報を標準化することで広域連携の推進、水道管の管理業務の効率化、維持管理等への貢献、波及効果として、緊急時の損害抑制、大規模災害時の情報共有に役立つことを期待しているという。